

## 1. 2023 年 4 月～2023 年 9 月事業報告

## 【はじめに】

コロナ感染症は 5 類になりインフルエンザと同等の扱いになり、ヘルパー会議やヘルパー合同学習会を行う事が出来ました。今年度は介護事業部で取り組んでいる「10 の基本ケア」を、ヘルパー学習会で、自立を支援し在宅生活を支えるための介護を共に学習しています。前年度から広報活動を月に 5 件を目標に掲げ、居宅介護支援事業所や訪問看護ステーションを回り、利用者 22 名を目標に定期巡回スタッフ 6 名中央ヘルパーステーションの力も借りながら奮闘しています。

## ■介護度別 利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
要介護 1	5 名	5 名	5 名	5 名	5 名	5 名
要介護 2	6 名	5 名	7 名	7 名	7 名	7 名
要介護 3	3 名	3 名	3 名	3 名	3 名	3 名
要介護 4	5 名	5 名	3 名	2 名	2 名	2 名
要介護 5	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名
計	20 名	19 名	19 名	18 名	18 名	18 名
随時対応	6	6	4	2	5	2
随時訪問	8	5	5	5	7	10
平均介護度	2.5	2.5	2.4	2.2	2.2	2.2
中止	0	1 名 終末期 訪看対応	0	1 名 入院から 入所へ	0	1 名 デイ回数 増の為

随時対応内容・・・相談・不穏・便が出ない・尿が出ない・テレビがつかん・足が痛い・いつ来る早く来て・明日(今日)誰が来る?・カーブはどうなった。(勝ったよ)

\*上記の対応数は頻回にかけてくる方は省いています。

⇒カウントが難しい(ヘルパーステーションとかんおん 24 にかけてくるため)

随時訪問内容・・・排泄介助・ベッドから転落・動けん・ベッドに移りたい・なし

事業報告・利用状況について報告を行った。

平均介護度が下がった(低い)説明を行った。要介護 1・2 が大半を占めている。平均介護度 3 あったら収益は上がるが、中止になるのが早い。要介護 1・2 は長期間介入できる。

## 居住地域

福島町、南観音町、観音町、己斐大迫、己斐本町、国泰寺、中広町、打越、田方、井口、新庄町  
庚午、大宮、

## 主なニーズ

・認知症で独居、定期的な服薬・食事の提供、生活全般を支援してほしい、後遺症があり排泄に介助が必要、家族の負担軽減のため毎日の排泄・移乗の支援が欲しい、転倒していないか安否確認で訪問してほしい、等

⇒説明を行った

#### サービス内容

・排泄介助、陰部洗浄、更衣介助、移動・移乗介助、洗濯、掃除、ゴミ出し、服薬確認、服薬介助、配食温め、配膳、下膳、買い物、バイタルチェック、入浴介助、足浴、清拭、水分摂取、安否確認、等

⇒入浴介助はスタッフが長時間滞在は難しかったため、以前は受けていなかったが需要があるため中央ヘルパーステーションに協力してもらい、五日市ヘルパーステーションに委託をして受け入れている。

\*連携居宅・・・ケアプランセンターカシス・土谷居宅介護支援事業所西広島・コモン居宅介護支援事業所・菱和居宅介護支援事業所・居宅介護支援事業所かりん・ベネッセ介護センター広島・広島中央保健生協居宅介護支援事業所・はばたきの里居宅介護支援事業所・広島県看護協会居宅介護支援事業所「こい」・井口台介護ステーション

\*連携訪問看護・・・訪問看護ステーションコスモス・訪問看護ステーションかもめ・訪問看護ステーション比治山

⇒報告を行った

## 上半期の動向

### 平均介護度低下

上半期の平均介護度は 2.2 で前年度より 0.2 下がり、前年度より利用者数は増えていますが、介護 4 の利用者が減ったことで平均介護度が下がったことが要因の一つです。

⇒報告を行った

### サービスエリアについて

事業の実施地域は井口・井口台を除く西区・中区全域です。実際新庄町から井口まで交通事情によっては 30 分以上かかることもあり、訪問に大きなロスが発生します。井口はエリア外ですが近隣の定期巡回の空きがなく困っているとケアマネージャーより依頼がありました。エリア内の中区方面の依頼では八丁堀・長束・牛田の問い合わせがありました。ルートから大きく外れるため受けることができませんでしたが、エリア外も問い合わせがあれば検討し受け入れをします。

⇒報告・説明を行った

## 定期巡回の訪問看護

13 件の訪問看護・医療サービスの利用と、月に 1 度のアセスメント訪問のみ利用が 7 件ありました。定期巡回の利用者は心疾患・糖尿病・認知症があり、体調の変化や内服管理、排便コントロールなどの療養上の助言や指導による日常生活に必要な関わりが必要な方が多く、体調の悪化により訪問頻度も多くなることもあり、報酬が定額のため訪問回数が増えることで訪問看護の負担が大きくなります。

⇒前年度より増えた

上半期、体調不良やケガ・内服薬等の相談・対応で訪問看護ステーションへ連絡することが前年より増加しました。法人の訪問看護ステーションの連携が主に連携しているため、随時相談できる環境にあり、スタッフには心強い環境で日々サービスを行う事ができます。スタッフ 6 名が各利用者のサービス内容や手技等で同じサービスの提供ができるように、手順書の更新や同行、申し送りの工夫等毎月の会議で確認します。月に 1 回開催していますが利用者毎の手技や変更部分はもう少し細かく、短時間で回数を増やすことができれば、統一したサービスができるのではないかと考えます。スタッフは利用者の受け入れに前向きです。より良いサービス、「住み慣れた地域で楽しく暮らす」在宅を支えるため下半期に向け取り組んでいきます。

⇒取り組みや報告を他事業所のケアマネにも参加してもらいたかったが、月末は忙しいため欠席が多かった。次回は年度末の 2 月中旬に開催したいと思う。ご利用者家族にも働きかける。

出席者	欠席者
観音町町内会 観音民事協 寄本 克枝様	観音学区 福祉協議会 佐伯 紀子様
観音町町内会 観音民事協 平野 千代子様	訪問看護ステーションコスモス 高橋 様
観音町西町内会 南 初彦様	
観音地域包括支援センター 新川 様	
訪問看護ステーション草津かもめ 村上 様	
広島中央保健生協居宅介護支援事業所 松井 様	
法人関係者 田頭 様	